

武術太極拳の北京五輪実施競技化めざして

～日本連盟総会で「特別決議」採択、国際武連に緊急提案～

(社)日本武術太極拳連盟の第45回理事会、第28回通常総会、および第14回都道府県連盟代表者会議が1月25日(土)、開催された。

理事会・総会で新年度事業計画等承認

五輪めざした継続的取組みを確認

第45回理事会、および第28回通常総会で、1)武術太極拳の2008年北京五輪実施競技化に向けた特別決議について、2)「武術太極拳五ヵ年計画」遂行に向けた取組みについて、3)2003年度事業計画案について、4)2003年度予算案について、等の議案をそれぞれ原案通り承認した。

議案1.では、日本連盟第28回総会特別決議「2008年北京オリンピックに関する国際武術連盟への緊急提案」を採択した。

この特別決議に関連して、新年度事業計画で、昨年度に実施した国際オリンピック委員会(IOC)ロゲ会長宛の署名活動、国際武術連盟(IWUF)支援募金活動にとどまることなく新年度以降も武術太極拳の北京五輪実施競技化に向けた継続的な取組みを行うことを確認した。併せて、特別決議(IWUFへの緊急提案)に則して、戦略的にメダル数と種目を確定すること、および特別対策委員会の設置と暫定模擬套路の試行、について具体化をめざすこと等を確認した。

新年度から「ブロック講師養成セミナー」

全日本選手権で北京市民200人が集団演武

議案3および4.で、2003年度(平成15年度)事業活動計画および同予算が審議のうえ承認された。

新年度事業活動として、「武術太極拳五ヵ年計画」に基づく人材養成事業として「ブロック講師養成セミナー」が実施されることになった。また、本セミナーの実施内容について、ブロック別伝達講習会、都道府県別伝達講習会を実施して各地の指導員の力量向上をはかり、同時に伝達講習会の講師の実績を評価して、後日、「ブロック講師」推薦の判断基準とする、ことが確認された。

7月に東京体育館で開催する第20回全日本選手権大会で、中国国・北京市民200人編成の旅行団が来日して太極拳集団演武を披露し、また国際武術連盟(IWUF)に対する緊急提案(第28回総会特別決議)に基づき中国から優秀選手団を招請し、大会最終日に優秀選手が北京オリンピックに向けて策定する暫定模擬套路のデモンストレーションを公開演武として実施する予定になっている。

新年度7月に、24式太極拳テキスト「太極拳実技テキスト」に加えて、テキスト「入門・初級太極拳」を刊行すること、同テキストの頒布促進を通じて、技能検定制度の全国的普及を一層推進すること、等も事業計画に盛り込まれた。

詳細は日本連盟機関誌「武術太極拳」2003年2月号、159参照。